

令和7年度 府中市立府中第六中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・読むことにおいて、本文の部分と全体のつながりを捉えながら読むことが難しい。 ・書くことにおいて、自身の意見を支えるための根拠を書くことが難しい。 ・漢字など小学校までの既習事項の定着に課題がある。	・本文の展開を図式化し、部分と全体とのつながりを視覚的に理解させる。 ・ワークシートを細分化し、意見・根拠を区別して書くように指導する。 ・定期的に漢字テストを実施し、定着を図る。		
数学	・特に分数や小数など、基礎的・基本的な計算力に課題がある。 ・思考力、判断力、表現力等を問う問題に、苦手意識をもつ生徒が多い。	・授業の始めに基本的な計算の反復を行い、毎授業での家庭学習の提示・確認と、単元テストや小テストを行いながら計算力を身に付けさせる。 ・思考力、判断力、表現力等を問う問題は、丁寧に指導をするとともに、生徒同士の教え合いを充実させ授業内で確実に理解できるようにする。理解したことを定着させるために、自分で考え、解き直しをするよう促す。		
理科	・知識の詰め込みになってしまい、思考力を問う問題で多くの生徒に課題がある。 ・実験において、実験手順とは関係のない行動を取ってしまう生徒がいる。	・学習内容をまとめ、その内容を応用する時間を授業内で確保する。 ・実験手順をより細かく提示するとともに、実験の危険性について改めて指導する。		
社会	・間違えることに抵抗感を抱き、班や学級全体に自分の考えを共有することが苦手な生徒がいる。 ・既習事項を新しい知識に転移させて考えたり、読み取った各資料を関連付けて考えたりすることが課題である生徒がいる。 ・学んだことの表現方法が書くことのみになりやすいため、書くことが苦手な生徒にとっては、学んだことをまとめきれないことが課題となっている。	・自由な発言を促したり安心して意見を交換できる雰囲気づくりを行ったりする。話す能力とともに聞く姿勢を身につけさせる。ICT 機器を用いて事前に意見を集約し、良い意見を教員が全体に共有することで自信を与える。 ・思考の方法を獲得できる授業展開にする。 ・図や話すことで学んだことを表現させる。また、ICT 機器を活用し、文字を書くのが苦手な生徒も文章を作りやすい環境を整える。		
音楽	・楽器の演奏等の際に、落ち着いて授業に取り組めるよう、配慮が必要な生徒が各クラス数名いる。 ・変声期と重なり正確な音で歌えない生徒がいる。 ・楽典などの基礎的・基本的な知識が身に付いていない生徒がいる。	・生徒の反応や行動を予測して、授業を円滑に進められるよう、板書や ICT 機器を活用して、授業展開を工夫する。 ・無理な発声や音域にならによる歌いやすいパートを選ばせる。発声では、母音による口の開け方の違いなどを学習し、歌うことへの意識をもたせる。 ・ワークシートなどを通じて基礎的・基本的な知識の定着を図る。		
美術	・表現活動に対する苦手意識をもった生徒がいる。 ・着彩による表現(絵の具などの用具の扱い)に苦手意識をもった生徒がいる。	・日頃から多様な表現技法や、表現の工夫について紹介することで、表現活動への興味や関心を高める。 ・参考作品を提示したり、用具の扱い方についても丁寧に解説を加えるように指導の工夫を図る。また個に応じたアドバイスや指導の充実を図る。		
技術	・製作図や構想図の読み取りや表現において、空間認識の力に差があるため、正しく表現することや読みとれる情報量に差がある。	・ICT を活用し、設計ソフト等をつかうことで直感的に製作図等を表現できるようにする。自由に製作図の向きを変えられる点を活かし、読み取りの練習を行う。		
家庭	・授業に前向きに取り組むことができる。 ・課題やテーマについて自分なりの答えを見つけることはできるが、理由を説明することに苦手意識をもった生徒が多い。	・理由の書き方や型を示すことは既に行っているが、具体的な見本（昨年度の物など）や他者がどのような言葉を使って理由を書いているかなど共有していく。		
保健体育	・自己の課題把握や、改善方法を選択できている生徒に差がある。 ・運動に対しての好き嫌いがあり、二極化している。	・資料集や ICT 機器などを活用し、多角的に生徒が改善方法を選択できるようにする。 ・段階的に取り組み、小さな成功体験を積ませて様々な運動に触れる機会を作る。		
外国語	・間違いを恐れずに、英語で継続的に会話する力を身につける。 ・自分の考えを既習の英文法・語法を使って、英語で書くことができる。	・いろいろな形式で英語を話す活動を行い、1 分間英語で会話を続ける取り組みを帯活動で継続して取り入れる。(対話すること) ・問題演習に加えて、自分の考えや意見などを英語で書く機会を増やし、書くことの時間を増やしていく。(表現すること)		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第六中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	- 書くことにおいて、基本的な知識や技能を用いることができない生徒が一定数いる。 - 読むことにおいて、問いを正しく理解し、正確に答えることができない生徒がいる。 - 漢字に苦手意識を持っており、ひらがな交じりの文章を書く、誤字をする生徒が多数いる	- 作文等を書く上で基本的な形を確認し、わかりやすい情報のまとめ方を意識させる。 - 問いの形を統一し、何を問われているのか、どのように答えればいいのかを伝え、繰り返し練習させる。 - 漢字を練習するためのテキストなどを通じて、新出漢字や既習の漢字を書く習慣をつける。		
数学	- 計算問題は積極的に取り組めており、力も定着しつつある。ただし、見直しをする習慣が身につけていないためケアレスミスが目立つ。 - 文章の中から数量関係を図ったり、式を立てたりする思考力、表現力、判断力等を問う問題に、苦手意識があり、空欄になってしまう生徒が多い。	- 計算については引き続き問題集などを活用し、タブレットによるテストでも確認していく。 - 文章題では、どこに数量関係があり、何を問われているのかを、アンダーラインを引くなどして強調して説明する。 - 授業で確認したことを定着させられるように、問題集や教科書を活用して解き直しを促す。		
理科	実験の目的を明確にし、計画的に実験に取り組む姿勢を身に付けさせることができていない。	話し合いや実験に積極的に取り組むことができるように、班の座席を工夫する。		
社会	- 授業については、興味・関心をもって取り組んでいるが、情報を踏まえて正しく考察する力が足りない生徒が多い。 - 基礎・基本の定着を全体としてまだまだ図っていく必要がある。	- 小テストやグループ活動での演習を通して基礎・基本的な知識、技能の定着を目指す。 - 実験・観察の結果について、自らの考えやほかの人の考えを共有し意見交換するなど、科学的に考察する力を高めさせるような授業展開や指導を行う。		
音楽	- 歌うことに抵抗感をもっている生徒が多数いる。 - 音楽の特徴を聴きとったり曲の雰囲気を感じ取ったりすることが徐々にできるようになっている。引き続き音楽の特徴を正確に聴きとり、自分の言葉で書き表すと同時に、自分の表現力の向上につなげる。	- 歌うことに対し、発声練習を工夫するなどして個々の生徒が自分の課題を把握し主体的な活動ができるように授業展開を考える。 - グループ活動を積極的に取り入れ、楽しんで互いを認め合えるような雰囲気を作り、表現の幅を広げる。		
美術	- 表現活動に対する苦手意識をもった生徒がいる。 - イメージした内容に合った表現技法の幅を広げることで、より豊かな表現力を身につけさせる。	- 日頃から多様な表現技法や、表現の工夫について紹介することで、表現活動への興味や関心を高める。 - 鑑賞の授業において、他者のさまざまな表現の工夫を見つけることで、多様な表現のよさに気付かせる。鑑賞を通じて、表現活動における意欲も高めていく。		
技術	- 安全に作業を進めることが困難な生徒が多数いる。 - グループ課題等で自分の意見を表現するのが苦手な生徒が多数いる。	- 作業時の班を検討し、生徒同士で補助しあえる環境を整備する。また、やり方の理解度が低く安全に作業が進められない生徒に対しては各自のタイミングでやり方を確認できる方法や複数のメディアを用意する。 - お互いの意見を尊重できるように、ブレインストーミングなど他者の意見を肯定できる環境づくりを行う。		
家庭	昨年度に比べると、集中して課題や作業にとりくむことができるようになってきているが、個人で課題に取り組むことや、作品作りなど決められた時間に集中して学習に取り組むことへの意識がまだ低い。	- 作品作り等では、個別最適な学習ができるように、様々な難易度の教材を準備し、個別に進められるようにする。 - 教え合いの時間を隙間に入れながら、集中する時間をわかりやすく提示する。		
保健体育	ペア学習で教える側が上手く教えられない。	動画の視聴等や見本を見せ、技能が高い生徒にもしっかりと理論を理解させる。		
外国語	- 言いたい事や書きたい事を正確にアウトプットする。 - アウトプットおよびインプット（特に読解）のベースとなる基本的な文法事項の修得を強化する。	- アウトプット（表現）の機会を授業内で増やす。 - 同時に中2から難化する文法事項の基本的理解のための問題演習を質的および量的に工夫していく。		

※達成の状況は、A：十分達成で教えるきている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第六中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 書くことにおいて、段落の作り方がわからない生徒や、文章を書く際に論理が飛躍してしまう生徒がいる。 - 読むことにおいて、抽象的な文章を読むことが苦手な生徒がいる。	- 授業の中でドキュメントを使って書かせることによって、教員がすぐに生徒たちの成果物に目を通し、適宜指導を行えるようにする。 - 抽象的な文章を扱う際に生徒たちに自分たちの言葉を使って説明できるように指導を行う。具体と抽象の関係や具体例を用いて説明できるように指導する。		
数学	- 学年全体で計算力が身につけてきている。 - 思考力、判断力、表現力等を問う問題に、苦手意識をもつ生徒が多い。 - 文章題は読む前からあきらめていたり、聞かれていることに答えられていなかったりする生徒が多数いる。	- 計算については引き続き問題集などを活用していく。 - 授業で扱った問題や、一度解けなかった問題でも、授業の解説や問題集の解答を見ながら、自分で考え、解き直しをするように促す。 - 文章題についても、何を問われているのかを分かりやすく説明する。		
理科	科学的な思考・判断・表現の評価が他の観点と比較して、低い傾向にある。	発問を工夫し、対話や思考の機会を増やし、知識の教授にならないようにしていく。		
社会	- 自分の意見や考えを表現するにあたり、適切な語句を活用し、わかりやすく記述する力が弱い。 - グラフ、表などの資料を読み取る力や考察する力に課題がある。 - 自ら課題を設定する意欲や能力が高い生徒とそうでない生徒との差が大きい。	- 小テストを実施することによって、基礎的・基本的な内容の定着や家庭学習の習慣を身につけるように促し、語句を適切に使えるように反復練習する。 - 授業内で地図やグラフ、写真資料等の読み取り課題の時間を確保し、類似問題の反復演習に取り組む。 - 授業内外の課題で自分の言葉で表現する努力を促す。授業中に文章で表現する課題に取り組む時間を確保する。		
音楽	自信をもって、歌唱や演奏することのできる生徒を増やす。	ペア活動やグループ活動などを取り入れ、お互いに教えあいながら歌唱や楽器に関する技能が向上できるよう、授業展開を工夫する。		
美術	- 表現活動に対する苦手意識をもった生徒がいる。 - イメージした内容に合った、表現技法の幅を広げること、より豊かな表現力を身につけさせる。	- 日頃から多様な表現技法や、表現の工夫について紹介することで、表現活動への興味や関心を高める。 - 鑑賞の授業において、他者のさまざまな表現の工夫を見つけることで、多様な表現のよさに気付かせる。鑑賞を通じて、表現活動における意欲も高めていく。		
技術	- 基礎的な仕組みや科学の考え方については理解できるが、それを活用し、適切な課題を設定する力が不足している。 - 自由進度学習においては積極的に活動する生徒が多数いる一方、別のことをして作業に集中できない生徒もいる。	- 問題解決に至る前に、基礎的な仕組みや科学の考え方について応用している例を事前に複数提示する。 - 正しく知識を活用できているか思考力や表現力を診断できるようにテストなどを活用していく。 - 自由進度によって大きな成果を出しているグループを共有し、ヒントとすることで学習目標から逸脱しない授業を展開する。		
家庭	授業で扱った内容や学んだことは説明することができるが、自分の生活に落とし込んで、関連や意見を述べることに苦手意識を持っている生徒が多い。昨年度よりも意見を書くことはできるようになっているが、自分ごととして授業の内容を捉えさせることができていない。	- ペアやグループで発表したり伝え合う時間を増やし、違う意見を取り入れて学びあえるようにする。 - 他者がどのような言葉で表現しているのか、学び合えるようにする。		
保健体育	- 自己や仲間の課題を明確にすること。 - 自己や仲間の課題について、自己の考えたことを他者に伝えるように言葉や文章に表すこと。 - 合理的な解決に向けて運動の取り組み方や練習方法を工夫すること。	- 課題発見についての視点を明示する。 - 動画撮影による分析を積極的に取り入れる。 - 話し合い活動の視点を提示するとともに、声かけの仕方を例示する。 - 課題に応じた練習方法を選択できるようにする。併せて練習そのものを考える機会を設ける。		
外国語	- 長文読解に正面から取り組める基礎体力をつける。 - 自分が言いたいことを正確に簡単な英語でまとめる。	- 読み取りドリルや入試形式の読み物だけではなく、パワポに残す指示や問題など、多種多様な英文を目に触れる機会を増やす。 - テーマを決めて、ペアで話した内容を、書いて残す作業を日常にし、必ず先生のチェックを受け、確認する。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。